

宮沢賢治が歩いた三陸ジオパーク

日本ジオパーク認定記念事業・宮沢賢治没後80周年記念事業
平成25年度三陸ジオパーク学術シンポジウム

～宮沢賢治が歩いた
三陸ジオパーク～

日時 平成25年12月4日
13:30～16:15

会場 大船渡市民会館（リアスホール）
大ホール **入場無料**

プログラム

- 13:30～13:35 開会挨拶
- 13:35～13:45 作品解説 「榎ノ木大学士の野宿」
講師：加藤碩一氏（NPO地質情報整備活用機構会長/
独立行政法人産業総合技術研究所名誉リサーチャー）
- 13:45～14:15 作品朗読 宮沢賢治作品の朗読
IBC岩手放送
・風見好実アナウンサー
・富田京央子アナウンサー
・風見好実アナウンサー
・富田京央子アナウンサー
- 14:15～15:00 記念講演 「宮沢賢治と三陸のジオ」
講師：加藤碩一氏（NPO地質情報整備活用機構会長/
独立行政法人産業総合技術研究所名誉リサーチャー）
- 15:00～15:10 休憩
- 15:10～16:15 鼎談
・中川和之氏（日本ジオパーク委員会 委員）
・廣瀬俊介氏（東北芸術工科大学 准教授）
・佐藤悦郎氏（大船渡市立博物館 館長）
- 16:15 閉会

【主催】岩手県・三陸ジオパーク推進協議会
【共催】岩手県立大学
【後援】花巻市・釜石市・大船渡市・陸前高田市・気仙沼市・住田町
【問合せ先】三陸ジオパーク推進協議会 〒027-0072 岩手県宮古市五月町1-20
TEL0193-64-1230 / FAX0193-64-1234

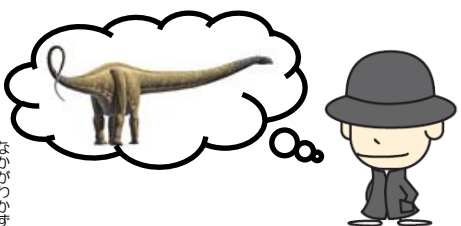

12月4日（水）に開催された、学術シンポジウム「宮沢賢治が歩いた三陸ジオパーク」（於：大船渡市民文化会館「リアスホール」）には、三陸エリアの内外から、200名を超える方々に参加いただきました。

「石っこ賢さん」と宮沢賢治の作品を、ジオパークの視点で読み解き三陸ジオパークの魅力へとつなげることが、このシンポジウムの狙いです。

基調講演は、ご専門の地質学から賢治作品を読み解く、宮沢賢治研究の第一人者、加藤碩一先生。白亜紀の恐竜が日本に存在したことを予言した、とされる『榎ノ木大学士の野宿』の朗読会。IBCアナウンサー3人の朗読と、事前の加藤先生

生による作品解説を通して、大学士が見た夢の世界が、情景豊かに伝わり、より深く物語を楽しめました。


最後は、中川和之の日本ジオパーク委員会委員、廣瀬俊介東北芸術工科大学大学院准教授、佐藤悦郎大船渡市立博物館館長による鼎談。


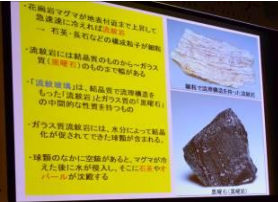

市立博物館館長による鼎談で、各人から三陸ジオパークの活動を通して地域を元気にするアイデアを出していただきました。

文学と大地の魅力とをつなげた宮沢賢治は、非常に面白いテーマを三陸ジオパークに残してくれました。

「賢治が歩いた三陸ジオパーク」を皆さんがより楽しめるように、新たな企画を練ってまいりますので、ご期待ください！



市立博物館館長による鼎談で、各人から三陸ジオパークの活動を通して地域を元気にするアイデアを出していただきました。

勝手にジオ飯認定委員会！

勝手に認定しちゃっています

今回ご紹介するのは岩泉町小川（こがわ）の「炭鉱ホルモン」です。

小川炭鉱は、昭和8年に本格的な採掘（平成8年閉山）が始まり、最盛期には1,000人を超える炭鉱夫たちが集まっていたそうで、はじめは石炭が、その後は耐火粘土が掘られていました。同地で産出される耐火粘土は全国一の品質といわれ、製鉄所の高炉内部にも使用されたそうです。

鉱山が栄えていた頃、朝鮮からの炭鉱労働者向

けに「あずまや」という食堂（すでに閉店）でホルモン鍋が長らく人気メニューだったそうで、その味は小川地区の皆さんに忘れられない味になりました。それが最近地元を中心に「炭鉱ホルモン」の名前で再興し、地元の店舗がアレンジを加え、今では4種類以上のホルモンが味わえるそうです。

昨秋からは「炭鉱ホルモンまつり」も開催され、各店舗の味比べすることもできます。

岩泉町に伝わる炭鉱の歴史とそこから生まれた伝統のグルメ「炭鉱ホルモン」。鉱物資源の歴史にまつわる「ジオめし」として応援していきます！

